

経皮的補助人工心肺サポート中の体温管理が予後に与える影響の検証

1. 研究の対象

2013年1月1日以降の当院において ECMO（経皮的補助人工心肺）を要した病客様

2. 研究目的・方法

世界的な非心臓手術における合併心疾患の評価と管理に関するガイドラインにおいても周術期に体温を維持することの必要性が項目として示されていますが、循環器疾患における ECMO（経皮的補助人工心肺）や持続透析療法など長期体外循環中の重症な方の体温管理に関する報告はいまだ少なく、循環器領域での体温管理に関する研究の推進を図る必要があります。一方で、人間の核心温が 37°C 前後となるように 0.2~0.4°C という非常に狭い範囲でコントロールされており、熱産生が追いつかないと、全身性のふるえ性熱産生（シバリング）が生じ、体温を上昇させようとします。本来、シバリングは酸素消費を増加させ全身状態が不安定になるため回避すべきですが、現状回避のためのはっきりとした方針は定まっていません。

特に ECMO 管理中は低体温になりやすく、ECMO 管理中の体温管理によりシバリングが発生することがあります。温度調整に関する決まりがないのが現状です。そこで、シバリングを起こさず患者にとって負担のないような温度管理をするため、「ECMO 管理中の体温管理フローチャート」を作りました。

本研究の目的は、ECMO 管理中の体温管理フローチャート導入前後でのシバリング発生の有無・感染状況や栄養状態の経過における変化を検証することです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

電子カルテから得られる全情報

4. 外部への試料・情報の提供

今回の検討では外部への情報提供はありません。

5. 研究組織

心臓病センター榎原病院

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて病客さまもしくは病客さまの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先まで 2022 年 12 月 31 日までにお申出ください。その場合でもその後の診療など病院サービスについて病客さまに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

心臓病センター榎原病院

住所：岡山市北区中井町 2-5-1

電話：086-225-7111

担当者：太田 典子（集中治療室 看護師）

研究責任者：平岡 有努（心臓血管外科）